

三木金物ふれあい体験事業

自治体情報

人口 82,346 人

標準財政規模 17,881,948 千円

担当課 兵庫県 三木市 産業環境部商工課かなもの振興グループ

電話番号 0794-82-2000 内線 (2233)

ホームページ <http://www.city.miki.lg.jp/>

事業期間 平成 20 年度から

参考とした施策

関係施策分類 ④

施策の概要

1 取り組みに至る背景

三木市は、鋸（のこぎり）、鉋（かんな）、鋸（こて）、鑿（のみ）、小刀などの金物を地場産業として栄えてきたまちであり、そのすばらしい製造技術から、世界的なシェアを有するほどに発展し、地域の産業を支えている。

しかしながら、建築工法の変化や安価な中国製品の輸入拡大、また、物が満ち溢れた生活への環境の変化、全国各地で刃物による凶悪事件が多発したことなどで消費者の道具離れが進み、三木金物の需要が伸び悩んできている。

このため、三木金物の更なる繁栄をめざした方策の展開が急務となっている。

2 事業内容（目的・目標・方策）

金物の生産地としての責務から、道具の正しい使い方、道具を使うことの楽しさを広めていくことで、三木金物の PR、ユーザーの創出から販売促進を図ることを目的として、小学生を対象とした手道具を使った工作教室「三木金物ふれあい体験事業」を展開している。

(1) 平成 20 年度

工作冊子「子どもと手づくり」を作成し、全国約 23,000 の小学校に配布し、手づくり教室の実施を促した。

この冊子は、親しみやすい絵で、道具の正しい使い方や手づくりおもちゃの作り方を解説したもので、安全に配慮しながら従来の刃物などの金物を正しく使用できるよう指導育成している。

この冊子をテキストとし、県外 2、三木市内全 16 の小学校での総合学習、図画工作、オープンスクールなどで、市職員、金物職人、市民ボランティアが講師となり、竹とんぼや竹笛などの手づくり教室を実施した。

(2) 平成 21 年度

平成 20 年度に引き続き、市内の全小学校での教室を開催する。

3 施策の開始前に想定した事業効果

三木金物の伝統技術を地元小学生に体感してもらうことで、地場産業への理解とふるさと三木への誇りと愛着を醸成するとともに、手の延長である道具を使うことで、手先の巧緻性を高め、子どもたちの豊かな創造力や集中力、問題解決能力を培う。



4 導入にあたり工夫・苦勞した点、課題、対処法など

- (1) 業務多忙な教育現場に新たな負担をかけずに受け入れられるよう、指導者の手配、材料や道具の準備、費用負担を担当課が担った。
- (2) 金物産地ならではの特色ある学校教育として定着させる必要があるため、教育委員会、学校、業界団体、指導ボランティアと連携して取り組みを進める。

5 現在の成果・実績、今後の展開など

冊子「子どもと手づくり」は、全国各地の小学校から活用の報告を受けている。

H20年度の手作り教室では、市内全小学校（16校）において、約800人の児童と約300人の保護者が参加され、徐々に本事業の有用性が学校現場で理解されてきた。今後は、対象を中学生、大人へと事業拡張を図りたい。



予算関連データ 三木市

総額 ①～⑤の計		財源内訳(財源区分:①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
4,789千円		0千円	0千円	0千円	0千円	4,789千円
①～④の名称・所管等	名称					/
	所管					
	金額					
	補助率					